

2022（令和4）年度 事業計画書

学校法人 鉄蕉館

亀田医療大学

亀田医療技術専門学校

目次 (Contents)

学校法人鉄蕉館の使命 (建学の精神)	1
建学の精神・理念に基づく人材像	1
I 学校法人鉄蕉館の重点戦略	
1. ガバナンスとコンプライアンスの徹底	1
2. ニューノーマル時代の新しいキャンパス創出	1
3. 社会連携、社会貢献の積極的な推進	1
4. 亀田グループとの共創	2
5. 収容定員の検討ならびに今後の展開	2
II 亀田医療大学の重点戦略	
1. 使命・目的等	2
2. 学生	
(1) 入学者選抜試験の公正かつ適切な実施	2
(2) 学生募集活動の強化	3
(3) 修学、生活等を総合的に支援する施策の実施	3
(4) 充実したキャリア支援の実施	3
(5) 国際化および高大連携・接続の強化	3
3. 教育課程	
(1) 授業科目の適切な開設と教育課程の体系的な編成及び教育方法等の改善・充実	4
(2) 学修成果の評価・可視化	5
4. 教員・職員	
(1) 教員の資質、研究力の強化	5
(2) 教員及び研究者における研究倫理の遵守、研究活動不正防止の徹底	5
(3) 職員の資質、能力向上への取組み	6
5. 内部質保証	6
III 亀田医療技術専門学校重点戦略	
1. 使命・目的等	6
2. 学生	
(1) 学生の受け入れ	6
(2) 学修支援	6
(3) 学修環境の整備	7
3. 教員・職員	
(1) 教育力向上に向けての教育環境の整備	7
(2) 職員の資質、能力の向上	7
4. 内部質保証	7
5. 地域貢献	7
IV 学校法人鉄蕉館・財務分野の重点戦略	
1. 基幹的収入	7
2. 支出の適正化	8
3. 主要財務指標等について	9

2022（令和4）年度 事業計画書

学校法人鉄蕉館における2022（令和4）年度事業計画は、本法人が定めた中期計画を確実に達成するために以下の計画を策定し実行する。

【学校法人鉄蕉館の使命】

我々は、愛の心をもって、学修者が能力を最大限に発揮できるよう支援し、自らの幸せと社会に貢献できる人間を育成することを使命とする。

【建学の精神・理念に基づく人材像】

本学は、「HEART」に集約された特性をもつ教養豊かな医療人を輩出する。

H：Humanity（人間への愛と尊厳）

E：Empowerment（動機付け、個人に内在する力の向上）

A：Autonomy（自律性と専門性）

R：Reason（理性）

T：Team（チーム医療）

I 学校法人鉄蕉館の重点戦略

1. ガバナンスとコンプライアンスの徹底

常に学修者に目を向け、寄り添い、かつ公共性と公益性、透明性が高い教育機関としてコンプライアンス遵守の取組み、ガバナンスの充実・強化を図る。特に大学においては昨年度策定したガバナンスコードの下、運営を行っていく。

2. ニューノーマル時代の新しいキャンパス創出

新型コロナウイルス感染症の収束は未だに予測困難であり、オンライン授業、ハイブリッド授業、ウェブ会議、テレワーク等の臨機応変な対応を行いつつ、本学全体のICTインフラを充実させ、次世代に向けたDX（デジタルトランスフォーメーション）を推進していく。併せて、看護実習におけるシミュレーション・バーチャルナーシング教育の拡大を模索していく。

3. 社会連携、社会貢献の積極的な推進

地域が直面している高齢化に伴う課題解決に向け、新型コロナウイルス感染症の状況を見据えながら、独自の公開講座を開催していく。その他、本法人が包括的提携を結んでいる鴨川市と医療・福祉機関が連携して運営している鴨川医療連携会議に参画し、市民向けの啓蒙活動、専門職を対象とする研修、および調査・研究の実施を担っていく。また、コロナ禍においても実施可能な内容を検討し、年間スケジュールを調整しながら、導入でき

る事項を選択して実施していく。

4. 亀田グループとの共創

亀田医療大学・亀田医療技術専門学校は亀田グループの一員であり、亀田メディカルセンターを始めとする各施設と一体となった学生教育を行っている。令和3年度には、亀田医療大学の教授が亀田メディカルセンター看護部長に就任し、より連携が強化された。今後もグループ間の協力による質の高い実習を維持・継続しながら、教育の質を担保し、研究面においてもより一層の活性化を図っていく。併せて、亀田メディカルセンターにおける社会人大学院奨学金制度の創設を促していく。

5. 収容定員の検討ならびに今後の展開

18歳人口の減少、少子化が進む中で定員確保を続けることは容易ではなく、最も困難な課題の1つである。特に最近の2年間はコロナ禍の影響も大きく、学生募集活動も制限を余儀なくされ、志願者数の減少にもつながっていると思われる。近未来の国内、県内、南房総地区の医療環境、医療状況のみならず国策や文部科学省の動向等を見極め、総合的・俯瞰的かつ柔軟な姿勢で大学、専門学校一体となる本法人としての定員数（看護師・保健師・助産師養成数）を引き続き慎重に検討していく。

II 亀田医療大学の重点戦略

1. 使命・目的等

幕末以降、亀田一族が連綿と行ってきた地域医療、看護教育活動の歴史を受け継ぎ、本学は平成24年に創設され、今日に至っている。法人の目的、学則、定められた使命・目的に加えて、本学の基本理念“HEART”の精神に基づき、学部・大学院において常に学修者本位の教育を行っていく。さらに、令和3年度に策定したガバナンスコードに準拠し、コロナ禍の中でも持続可能でかつ強靭性を確保した大学運営を行い、特に今年度は教学における内部質保証に積極的に取り組んでいく。

2. 学生

(1) 入学者選抜試験の公正かつ適切な実施

本年度も引き続き、アドミッション・ポリシーに沿った入学者選抜を公正かつ妥当な方法により、適切な体制のもと運用していくほか、その検証を行っていく。また、新型コロナウイルス感染症はいまだ収束しておらず、入学試験においても、入試担当者の体温等のチェック、別室受験、受験生同士の距離を保つ等の感染対策の徹底を講じるとともに、受験生への不利益回避の観点から、各試験に予備試験日を設け、受験機会を確保するようにする。

(2) 学生募集活動の強化

広報・学生募集委員会を中心に募集活動を継続する。対面式やオンラインでのオープンキャンパスを積極的に行い、受験生にアプローチしていく。また、高校教員への説明会実施によるパイプ強化を図るほか、特に、本学が位置する南房総周辺地域の高校への広報活動を強化する。さらに、遠方地域に向け本学の魅力発信をするべくWEBでの動画配信、SNSの活用による様々な情報の発信を行う。そのほか、次世代の看護職志望者増を図るべく、県内小中学生への働きかけを行う。

(3) 修学、生活等を総合的に支援する施策の実施

学生生活全般の支援として、以下を実施する。

- ① Covid-19 に対する学生生活の支援
- ② チューター制度の見直し（ポートフォリオの導入）
- ③ 学生自治会への支援（クラブ活動、大学祭等）
- ④ 学生生活満足度・実態調査の実施（Covid-19による学生生活や学修への影響の実態を把握）

修学支援としては、1年生にはポートフォリオを導入し、学生が主体的に立てた学習目標や計画に基づき学修支援を行う。また、基礎学力を把握する目的で、基礎学力試験を実施するほか、Kameドリル等を実施し、基礎学力の向上を図る。併せて、Kameドリル実施による学生個々の学力向上に関する評価分析を行う。そのほか、全学生に対しては学習支援委員会と学年チューター制度を活用した効果的な学修支援を模索し実施する。

(4) 充実したキャリア支援の実施

看護師国家試験の全員合格を目指し、学習支援委員会が立案する1年生から4年生までの看護師国家試験対策計画に基づき、学修支援を行っていく。併せて、成績が低迷する学生に対しては、学習支援委員会と担当学生チューターが協働して、学力向上に向けた支援を行う。

卒業時には、すべての学生が希望に沿った進路に就けるよう、チューターを中心とした教職員が協働して学生のキャリア支援を行う。なお、1年生に導入するポートフォリオでは、キャリア形成を考える目的で学生自身に「キャリアデザイン・シート」や「目指す看護師像」を作成し、その実現に向けた支援を行う。

(5) 国際化および高大連携・接続の強化

今年度は以下の視点を継続して検討し強化・実践していく。

- ① 交流協定を締結している中国山西医科大学とは、引き続き留学生の受け入れ体制および国際看護研修等の研修内容を継続して検討する。
- ② 教員および学生の海外研修・交換教育プログラム等についても、交流協定大学（中

国)をはじめ欧州の大学も候補に入れた内容で検討する。

- ③ 本学の高大連携活動である千葉県立長狭高校が設置する医療・福祉コースへの支援を引き続き行うほか、教員の出張講義等の充実をはかる。
- ④ 高大連携が確実に活動、実施できるために、定期的な協議体制を構築し接続の強化を図る。
- ⑤ 入学前教育においては、入学予定の生徒の所属する高校教員に対し、文書により本学の入学前教育を説明するとともに当該生徒が入学前教育の学習スケジュールを作成しているかの確認を依頼する。また取組状況によっては、大学から高校教員に連絡し、生徒の入学前教育の取組を高校と大学で連携して支援する。

3. 教育課程

(1) 授業科目の適切な開設と教育課程の体系的な編成及び教育方法等の改善・充実

【看護学部】

授業科目の適切な開設と教育課程の体系的な編成及び教育方法等の改善・充実に向け実施体制を整えていく。

- ① 教育目標達成に向け、カリキュラム・ポリシー (CP)、アドミッション・ポリシー (AP)、ディプロマ・ポリシー (DP)、教育目標を本学ホームページ及びシラバス、学生便覧に明記する。それらについて年度の開始時に全学生に説明し、それに沿った教育を行う。
- ② CP と DP、DP と教育目標との関係、および本学の教育における内部質保証の PDCA サイクルを回していく。また、それらを HP に公開する。
- ③ 教務カリキュラム委員会と学長戦略室 IR 部門が連携し、科目成績、GPA、進級率、退学率、国家試験合格率を比較検討・分析を行う。
- ④ これまでの教育体制を検討し、進級制度を見直す。
- ⑤ 学生による授業評価、教員自らの教育評価を実施し、カリキュラムの見直し改善に活かす。
- ⑥ 学生から教育プログラムに関するヒアリングを実施し、カリキュラムの見直し、改善に活用する。
- ⑦ 学修成果の可視化および学生が自らの学修成果を自覚するために、アセスメントテストを活用する。また、ディプロマサブリメントを発行し、就職等に活用できるシステムを確立する。
- ⑧ 授業方法の工夫やアクティブラーニング、ICT を活用した授業展開に関するファカルティ・ディベロップメント (FD) を一層充実させる。
- ⑨ ICT 関連設備の整備及びオンライン授業にむけた Wi-Fi 環境を整備し、引き続きオンライン授業の構築とその質保証のための評価を行う。
- ⑩ 現行の実習指導者会議や実習調整会議を継続し、学生の看護実践能力向上を目指し

て臨床と大学の連携強化、効果的な実習指導体制と実習環境の整備を図る。

【大学院看護学研究科】

- ① 新たな高度実践看護師の教育課程コースとして、クリティカルケアコース、NP コースの申請を行っていく。
- ② 授業評価、修了生調査を実施して、3Pの見直しを行っていく。
- ③ 博士課程の設置申請に向けた検討を行っていく。

(2) 学修成果の評価・可視化

- ① 教育の内部質保証のためのPDCAサイクルとアセスメント・ポリシーに基づき、IR部門と連携しつつ、本学の教育評価を実施し、3Pの評価等を行い、改善すべき点は改善していく。
- ② 学修成果の可視化の一部として、ディプロマサブリメントの内容を見直し、精練していくとともに、その活用法（就職活動・継続教育）について検討する。
- ③ 学修成果の客観的評価のための方法として、PROGテストを実施し、学士力・社会人基礎力の観点から、本学の教育評価を行う。
- ④ 昨今の高等教育行政の動向について、教職員が認識を深めるべくスタッフ・ディベロップメント（SD）において講演会を実施するほか、研修への派遣を促す。
- ⑤ 学修成果の可視化と学生のキャリアデザインの発展のために、ポートフォリオを導入し、その有効な活用方法について継続的に検討していく。
- ⑥ DP達成を目指した教育プログラムを評価するために、学生からの教育内容に関する意見聴取会を定例開催する。
- ⑦ 卒業生の動向調査等を実施し、卒業生の活躍の実態を把握することで、本学の教育成果を把握するようにする。

4. 教員・職員

(1) 教員の資質、研究力の強化

教員においては全員が研究テーマを持ち、研究活動を行い、研究論文作成に努力する。全教員が科研費申請を本務と心得え、採択率向上（20%以上）を目指す。

また、教員の研究能力向上のために、FD等において、研究交流会等、研究の気運を盛り上げる企画を実施するとともに、科研費獲得のための支援を実施していく。

(2) 教員及び研究者における研究倫理の遵守、研究活動不正防止の徹底

研究倫理研修会等実施概要に基づき、APRINのe-learningプログラムによる研究倫理研究の有効期限内の受講を促し、受講履歴を管理する。

機関全体として研究倫理や研究不正防止に関する意識を高めるために啓発活動を行う。

(3) 職員の資質、能力向上への取組み

大学の諸活動に関する情報収集・分析を行い、大学の改善・改革につなげるべく IR（インスティテューショナル・リサーチ）活動をより活発化させるほか、SD 活動等も行う。

5. 内部質保証

学長戦略室プロジェクトとして教学における内部質保証に取り組んでいく。特に学修成果の可視化をアセスメント・ポリシーの中で実行していく。

学長戦略室の中に質保証部門を拠点に、IR 部門と連携しつつ、教育の内部質保証のための PDCA サイクルに基づいて評価を実施していく。

III 亀田医療技術専門学校の重点戦略

1. 使命・目的等

教育理念のもと「看護師、助産師、介護福祉士として必要な知識・技術・態度を習得し、保健医療福祉チームにおいて高いモラルを有する専門職として、社会の要請に応えながら人々の幸福に貢献できる人材の育成を目指す」ことを教育目的としている。この理念・目的等を活動全体に反映していく。また、定期的に評価を行い、検証を行っていく。

2. 学生

(1) 学生の受け入れ

- ① 入学選抜試験において、各学科の特徴や特色を活かしながら社会情勢・入学状況に応じて改善・充実に向けて取り組む。特に看護学科では、入学試験問題作成の業者等について再検討する。
- ② 助産学科では、入学者増員に向けて実習施設の新たな開拓を具体的に進める。
- ③ 受験者増加に向けて、広報活動に対する体制の強化に努め、情報の共有化など連携を図りながら取り組んでいく。また、オープンキャンパスについては、対象のニーズを検討し、来校・WEB による開催など多様な方法を引き続き検討していく。
- ④ 多くの高等学校ガイダンスや入試説明会などに参加できるようにさらに体制を強化していく。

(2) 学修支援

- ① 亀田グループを含め各学科における専攻分野に関する職能団体とさらに連携を深めるために情報発信・共有等を促進するシステム構築を推進する。
- ② 継続的に ICT を活用した学習支援体制の構築に取り組む。助産学科・看護学科において電子教科書の導入に向けて検討する。
- ③ 各学科とも国家試験 100%合格を目指し、計画性を持ち支援を実施していく。

- ④ 新カリキュラムにおける学習支援を実施し、評価・修正等柔軟に対応していく。

(3) 学修環境の整備

- ① 電子教科書の導入等の際し、Wi-Fi環境をさらに整備していく。
- ② 対面・WEBなどMicrosoft365の機能をさらに活用し学習支援に取り組む。
- ③ 定期的に図書運営委員会を開催し、ニーズに合った書籍等を配備する。
- ④ 1号館の改修工事については、33年経過しているトイレ周りの改修工事を計画していく。

3. 教員・職員

(1) 教育力向上に向けての教育環境の整備

- ① 自己研修計画を立案し、亀田グループ内の研修や関連学会・研修会へ計画的に参加する。
- ② 学び得た知識については、教員間で共有できる仕組みづくりを作成し実施する。

(2) 職員の資質、能力の向上

- ① 亀田グループ内の研修や関連団体の研修会の情報を共有し、SDに基づき教職員が参加できるよう取り組む。

4. 内部質保証

- ① 学校評価である自己点検・自己評価を計画的に行い、教職員間での問題解決をさらに充実していく。
- ② 学校関係者評価を計画的に行い、評価内容を社会へ公表していく。
- ③ 教育課程編成委員会を計画的に行い、本校の教育課程等に対する検討を行う。
- ④ ICT活用による授業評価に取り組む。

5. 地域貢献

- ① 地域貢献の一環として、近隣小中学校への思春期教育を継続していく。また、子育て支援活動への取り組みを検討する。
- ② 地域におけるボランティア活動等の事業を把握し、教職員・学生が参加できる取り組みを検討する。

IV 学校法人鉄蕉館・財務分野の重点戦略

1. 基幹的収入

1.1 基本方針

学生生徒等納付金、各種補助金（経常費補助金・科研費等）を基幹的収入とし、寄付金収

入は基幹的収入に次ぐ収入と位置付け、それぞれ、収支予算計上額の確保に努める。

1.2 学生生徒等納付金収入増のための目標・対策

- ① 大学看護学部・専門学校看護学科の在籍者数は、志願者の増及び入学者数増並びに、退学者の抑制等により収容現員が収容定員を充たすように努める。
- ② 学生生徒納付金は、新入生については定員、在生については現員を勘案して計上する。
- ③ 専門学校介護福祉学科は、千葉県社会福祉協議会修学資金貸付金（返還免除要件有り）を活用する。
- ④ 専門学校日本語学科は、千葉県留学生受入プログラム及び社会福祉法人外国人留学生制度等を活用する。

1.3 経常費補助金獲得のための目標・対策

- ① 引き続き財務情報の公開の維持充実を図る。
- ② 定員充足状況による減額を回避する。
- ③ 経常費補助金等計上額（亀田医療大学）は130百万円とし、その達成に努める。

1.4 寄付金獲得のための目標・対策

- ① ステークホルダーの理解を通じた寄付件数の大幅増（裾野拡大）に努める。
- ② 使途の公開等を推進する。
- ③ 令和4年度目標額は300百万円（大学独自奨学金財源を除く）とする。

2. 支出の適正化

2.1 基本方針

- ① 人件費（人件費率）の適正化を図り教育研究経費を確保する。
- ② 減価償却引当特定資産の活用及び施設整備補助事業（補助金）の確保等により施設設備の維持拡大に努める。
- ③ 施設設備長期修繕計画の詳細を検討し、施設設備の延命化及び修繕費の節減に努める。
- ④ 学生アパート等（保有・一括借上）の補助活動については、保有資産に係る減価償却費及び修繕費を含めた部門別収支均衡を目指し、採算改善を前提に貸与条件等の見直しを行なう。

2.2. 人件費・教育研究経費・管理経費の計画

- ① 教育の質を担保することは必須であるが、人件費適正化を維持することとバランスを図る。

- ② 教育研究経費、管理経費、施設整備費等についても引き続きその節減に努める。
(介護福祉学科及び日本語学科については、学生数の増見込を勘案。)

2.3. 大学独自奨学金の計画

令和4年度より従前スキーム(医療法人鉄蕉会奨学金貸与制度)に復することとなった。
与信管理(徴収不能引当金計上等)は令和6年度まで行う。

2.4. 施設設備整備維持・更新の計画

- ① 減価償却対象資産の取得及び更新に際し、補助金、減価償却引当等特定資産の有効利用を図る。
- ② 施設設備の維持・延命及び計画的な取得・更新に努める。
- ③ 亀田医療大学 ICT 基盤システム(平成24年4月導入、平成29年4月更新)は、令和3年度末で予定供用期間5年を迎えた。このため、当該システムの供用開始時期及び費用対効果等を総合的に勘案した結果、令和4年度にネットワークの更改を行うものとする。

3. 主要財務指標等について

3.1 基本方針

「教育活動収支差額」、「経常収支差額」、「基本金組入前当年度収支差額」の黒字確保に努める。

3.2 翌年度繰越支払資金

翌年度繰越支払資金の拡充(対前年度増)を図る。

3.3 基本金組入前当年度収支差額

基本金組入前当年度収支差額の黒字を確保する。

3.4 基本金組入前当年度収支差額等の計画

安定した収入の確保及び費用の節減等により、黒字を確保する。

3.5 定量的な経営判断指標に基づく経営状態の区分

日本私立学校振興・共済事業団が示している「定量的な経営判断指標に基づく経営状態の区分(法人全体)」に基づく「経営状態」について、A3状態(正常)を維持するとともにA2状態への改善を目指す。

3.6 ベンチマーク校の設定

看護学系単科大学を有する学校法人をベンチマーク校として選定し、各種指標の比較実施を試行し、経営改善の資とする。